



Data

監督・脚本：侯孝賢（ホウ・シャオ
シェン）

出演：王啓光（ワン・チークアン）
／李淑楨（リー・シュウチェン）
／古軍（グー・ジュン）
／梅芳（メイ・ファン）／陳博正（チェン・ボーチェン）
／林秀玲（リン・ショウリン）
／楊麗音（ヤン・リーイン）
／顏正国（イエン・チェングオ）
／楊徳昌（エドワード・ヤン）

👁️👁️ みどころ

山口百恵が歌った『ひと夏の経験』（74年）は、歌詞を聞く限りヤバそうなひと夏だったが、田舎のおじいちゃんの家で、妹の婷婷と共に夏休みを過ごした冬冬の「ひと夏の経験」とは？

どこか懐かしさが広がるスクリーン上を見ていると、子供には子供の世界があることがよくわかる。他方、否応なく訪れてくる大人の世界との接点は、どんなところに・・・？

松山で過ごした私の小学生時代を懐かしく思い出しながら、この夏休みに起きた冬冬の成長ぶりを楽しく鑑賞！



■□■侯孝賢監督の「青春4部作」の2本を今！■□■

侯孝賢（ホウ・シャオシェン）監督と言えば、何と言っても『悲情城市』（89年）の印象が強烈だった（『シネマルーム17』350頁参照）。また、『百年恋歌』（05年）（『シネマルーム13』93頁参照）、『ホウ・シャオシェンのレッド・バルーン』（07年）（『シネマルーム20』258頁参照）も良かった。さらに、最新作の『黒衣の刺客』（15年）はアイパッドで中国語版を観たので全部は理解できなかったものの、これもすばらしかった。そんなホウ・シャオシェン監督の「青春4部作」と呼ばれている、『風櫃の少年』（83年）、『童年往事 時の流れ』（85年）、『冬冬の夏休み』（84年）、『恋恋風塵』（87年）のうち、今般『冬冬の夏休み』と『恋恋風塵』の2本が世界初のデジタルリマスターで劇場に蘇ることに。

『冬冬の夏休み』は幼い兄妹のある夏休みの物語。『恋恋風塵』は幼なじみの男女の淡い

初恋とその破綻(?)の物語だ。いずれもセリフに頼るのではなく、淡々と人物と風景を追っていくカメラの映像から物語を「感じる」映画だが、鑑賞後はなぜか心が洗われ、懐かしい昔に戻った気分であらうになる。もっとも、『冬冬の夏休み』は懐かしい思いだけが残るが、『恋愛風塵』は誰でも自分の体験した初恋を思い出し、それと突き合わせながら観てしまうため、その結末の切なさには少ししんどくなる面も。もちろん、それは『悲情城市』を鑑賞した後の、ぐったりと疲れきったしんどさや無力感とは全然異質のものが・・・。

■□■子供時代のふるさとでの生活は？夏休みの過ごし方は？■□■

日本人の愛唱歌『ふるさと』の最初の歌詞は、「兔追いしかの山 小鮒釣りしかの川」だが、子供時代に実際にそんな経験をした人はいないのでは？しかし、松山市という地方都市の中心部に生まれ育った私でも、小学生時代の夏休みには山に蟬を獲りに行ったり、川に魚をすくいにとったりした経験はある。さすがに、川で泳ぐ(という危険を冒す)ことはなかったが、海水浴場ではない(多少危険な)海で泳いだことはあった。

また、その頃は電車で20～30分も乗って外に出かければ旅行気分になったもので、親戚の家や両親の友人たちの家を訪ねると興奮したものだし、「泊まり」ともなるとそれだけで一大行事だった。ちなみに、6月5日に観た『探偵ミタライの事件簿 星籠(せいろう)の海』(16年)では忽那諸島が一つの舞台として登場していたが、私が小学4年生の時に合唱部の夏の合宿でそこに泊まった時の高揚は今でもよく覚えている。

『仰げば尊し』の歌を歌って小学校を卒業した冬冬(トントン)(王啓光(ワン・チークアン))が、夏休みの期間中に妹の婷婷(ティンティン)(李淑楨(リー・シュウチェン))と共に台北から田舎に行くのは、母親が入院することになり、田舎のおじいちゃん(古軍(グー・ジュン))の家で面倒を見てもらうためだ。さあ、おじいちゃんの田舎での「冬冬の夏休み」は？

■□■冬冬は子供たちの世界を満喫！婷婷は？■□■

21世紀に入った今、日本では、田舎でも子供たちが川の中に入って泳ぐことは禁止されているはず。したがって、冬冬が地元の子供たちと一緒に川で遊び、川の中で泳ぐ風景を見ていると、どこか懐かしさを覚えてくる。もっとも、パンツ1枚、もしくは素っ裸になって川遊びができるのは男の子だけで、女の子はムリ。したがって、妹の婷婷が川遊びの仲間に入れてもらえなかったのはやむをえない。

おじいちゃんの家に行く途中、2人を引率する叔父さんの昌民(チャンミン)(陳博正(チェン・ボーチェン))とはぐれてしまったのは、ハッキリ言って叔父さんのチョンボ。そんな中、冬冬が婷婷を連れておじいちゃんの家までたどり着いたのは立派。また、列車に乗り遅れた叔父さんを駅前で見るとじっと待つ間に見せる、地元の子供たちの亀と自分の

リモコンカーを交換する「物々交換」の才覚もなかなかのものだ。この「取引」の損得勘定は微妙だが、これによって阿正国（アチング）（顔正国（イエン・チェングオ））をはじめとする地元の子供たちと友達になれたのは、冬冬にとって最大の成果だろう。

このように、冬冬はおじいちゃんの田舎で過ごすはじめての夏休みで、たちまち子供たちの世界を満喫することになったが、冬冬に連れられていただけの婷婷の方は女友達は一人もできなかったからかなり苦戦。そして、そのストレスがある「大事件」を引き起こすことに・・・。

■□■冬冬と婷婷の大人の世界との接点は？■□■

ある「大事件」とは、川の中に入れてもらえないまま、男の子たちが裸で遊び回る姿をじっと見ていてストレスいっぱいになった婷婷が、男の子たちが脱いで置いていた服を川の中に投げ捨ててしまったこと。これによって、一人の男の子が連れてきていた牛の糞とともに、男の子たち全員の服が川下に流れていってしまったから、冬冬を含む男の子たちは全員、葉っぱで局所を隠しながらそれぞれの自宅へ帰ることに・・・。

子供たちの世界におけるこんな「大事件」はかわいいものだが、冬冬と婷婷がホントにややこしい大人の世界と接点を持つことになる、それは大変だ。冬冬と婷婷の目から見た、大変な大人の世界の第1は、叔父さんの浮気（？）とその結婚。この男女間の機微はさすがに冬冬には理解できないものだろう。第2は、強盗事件の目撃。こんな恐い経験はよほどでなければできないが、よりによってこの夏休みに起きるとは・・・。第3は、知的障害を持つ女性、寒子（ハンス）（楊麗音（ヤン・リーイン））との出会い。男の子たちは集団でこの寒子と対立（？）したが、なぜか寒子に気に入られた婷婷の方は・・・。

ちなみに、この寒子の容姿はそれなりのものだし、若い女性としての生殖能力を持っていたのは当然だから、村の雀売りの男の子供を身ごもってしまったのは大きな不幸。その妊娠中絶をめぐる大人たちの議論は、婷婷はもちろん冬冬にも理解できないだろうが、少なくとも寒子が婷婷にとっていい女友達になったことはまちがいない。そんなこんなの大人の世界との接点を持つことになった冬冬や婷婷にとって、この夏休みは貴重なものになったはず。そしてまた、そこでの成長度は相当高いのでは・・・。

■□■家の中を走り回った経験は？■□■

冬冬のおじいちゃんは自分で医院を経営しているお医者さんで、田舎ではかなりの名士らしい。その自宅も広くて立派なものだ。本作では、2階の廊下で冬冬がバタバタと音をたてながら往復運動（？）をしている風景が登場する。さすがにその足音は1階にいるおじいちゃんの気に障ったようで、小言をちようだいすることになるが、冬冬にとってこんな風に家の中を走り回るのは台北の家では絶対できないだけに、貴重な経験になったはずだ。

松山で小学生時代を過ごしていた私も、黒板屋を営んでいた父方のおじいちゃんの家によく行っていた。そこは松山市の中心部ながら、階段が2カ所もある大きな2階建てだったから、いとこたちが集まった時はみんなで家の中を走り回ったものだ。また、母方のおじいちゃん宅は海の傍にあり、こちらも大きな家だったから、そこでも家の中を走り回っていた。今は、ちょうど是枝裕和監督の『海よりもまだ深く』（16年）と阪本順治監督の『団地』（16年）が公開され、昭和の良き時代の「団地」が見直されているが、団地ではその中を走り回ることは不可能だ。したがって、団地住まいしか知らない子供たちにとっては、本作のように冬冬がおじいちゃんの家の中を走り回る風景はわかりにくいかもしれない。本作は台湾映画だが、日本人の私にも懐かしく思えるものばかり。自分の小学生時代を懐かしく思い出し、それと対比しながら本作を鑑賞できた自分をうれしく思うとともに、こんな映画を作ってくれたホウ・シャオシェン監督に感謝！

しかして、現在小学生の子供たちが本作を観れば、その感性にはどのように響くのだろうか？是非ゆっくりそれを聞いてみたいものだ。

2016（平成28）年6月22日記